



NIPPON BEARING

6月23日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【夢を乗せた空飛ぶ気球 世界初の搭乗は羊・鶏・アヒル】

人類が初めて気球に乗って有人飛行を成功させたのが、1783年11月21日。

その少し前の1783年9月19日、実は人より先に、羊・鶏・アヒルが初飛行を成功させました。

この2つの初飛行を成功させたのは、フランスのモンゴルフィエ兄弟。

当時、暖まった空気は軽くなり上昇することが分かっていたため、火を燃やして出る煙には空を飛ぶ力があると思われていました。

最初の搭乗が人で無かった理由としては、『空は神の領域なので人間が踏み込むべきでは無い!』という意見があったと言われています。

実際は、上空での安全が不明だったこともあり、まずは、人間の前に動物で安全性を確認したという説の方が正しいかも知れませんね。

1783年当時、空を飛ぶ気球を見た人々は、驚きと同時に未来への夢を描いたことでしょう。

人類が初めて気球に乗って空を飛んでから234年。

今では人類は宇宙にまで飛んで行けるようになりました。

現在、気球は最古のスカイスポーツとして様々な楽しみ方があります。

【ジョイライト】と呼ばれるフライトそのものを楽しむ空中散歩から、定められたエリアや時間の中で『飛距離』や『目的地への近さ』などを競う【競技フライト（タスクと言います）】、

気球のサイズごとに世界記録・日本記録を目指す【記録フライト】などがあります。

競技フライトの種類は意外と多く、約20種類もあります。

競い方は、『マーカー』と呼ばれるリボンを付けた10cm四方の砂袋をタスク毎に投下して結果を残します。最近では、気球にGPSを付けてその航跡から成績を得る方法もあるそうです。

また、スポーツ以外にも、気球は気象観測などにも利用され、役に立っています。

日本ベアリングでは2機の気球を所有し、クラブ活動としてパイロットを育成しています。

地域のイベントを始め、要望に応じて様々な行事に部員がかけつけて、子どもたちに気球体験の場を提供しています。

今も昔も、人々に夢と希望を与えてくれる気球。

気球が大空を飛ぶように、日本ベアリングの活動は、地域の子どもの夢を未来へと羽ばたかせてくれる原動力となっていることでしょう。

【企画・協力：㈱学研エデュケーショナル】